

イベントレポート 『2012 K耐久東海シリーズ 第5戦』

開催日 2012年12月9日(日)

9:30 決勝スタート 12:25 チェッカー

天候 曇り時々晴(路面ドライ)

最高気温 7.4℃(11時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 36台

2012年シーズンを締めくくるGT耐久東海シリーズ第5戦が、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

各地から集まった36台の参加車たちは、真冬の天候を吹き飛ばすかのような熱気で、最終戦のステージに向かう。今大会はトッププロの参加もあり、大変な盛り上がりを見せる最終戦に注目が集まった。



KNNクラス(軽NAのノーマルクラス)

第4戦終了時点で、#16「ガレージイシヤマトウデイ」が68点、#100「HACもらいものビート」が57点でこの2チームにシリーズタイトルのチャンスがある。第4戦ではそのなかでも#16は優勝を飾っておりこのままタイトルへ押し切りたい。

今回は、初参加が4チームを加え全8台のエントリーとなり、過去最高のエントリー台数を記録した。K耐久東海シリーズにおいてノーマル車クラスが着実に成長していることを実感した最終戦、有終の美を飾るのはどこか。



■予選

予選クラストップは初参加となる#54「Y'sparts 悪童 ni アルト」で、1' 10.591、2番手は#383「カワセミブルーミニ」が1' 11.380で続き、ランキングトップの#16「ガレージイシヤマトウデイ」は1' 11.507で3番手、その後4番手に#100「HACもらいものビート」1' 13.947となりシリーズ争いをしている2台の上にくる。

以下、5位の#58「ガッツアルト with セシカ」が1' 14.069、6位の#30「ガレージミウラ ワコーズプレオ」が1' 14.646、7位の#444「Team YKSR ALTO」が1' 16.823、最終グリッドは#226「KSUAC-12 はんなりミラ」となった。

初参加やインターバルを置いてのドライバーがいるチームも、しっかりと完熟走行をおこなって全車決勝へとコマを進めた。



■序盤

まず最初にトップに立ったのは勝ってタイトルを取りたい#16「ガレージイシヤマトウデイ」。1時間が経過した時点でピットインの関係もあって、#54「Y'sparts 悪童 ni アルト」が総合でも5位を走る健闘。だが、#54は義務ピット時間不足で2周減算で後退を余儀なくされる、これはもったいない。

ほぼ同じペースで上位かうかがうのは#383「カワセミブルーミニ



カ」、#100「HACもらいものビート」、#100 はタイトルを取るためにはまず勝利が絶対条件、#16 には離されてはいけない。

初参加の#58「ガッツアルト with セシカ」は 5 位、これまた初参加の#30「ガレージミウラ ワコズプレオ」も 6 位とまずまずのポジション、#30 のプレオは背高ボディがよく目立つ。開幕戦以来の出場となる7位の#444「Team YKSR ALTO」に続き#226「KSUAC-12 はんなりミラ」もほぼノーマルながら自身のペースを刻んでいる。

■終盤

2 時間経過時点となると、#16「ガレージイシヤマトウデイ」がトップに浮上してくる。が、#100「HACもらいものビート」も同周回でびったりとマーク。タイトルのためには一歩も譲れない両チーム。

一旦は後退した#54「Y'sparts 悪童 ni アルト」も盛り返し、#383「カワセミブルーミニカ」と 3 位争い。レース中の最速タイムは 1 分 10 秒を切る#54 の速さは注目。

中団では、#30「ガレージミウラ ワコズプレオ」が#58「ガッツアルト with セシカ」と争い、それに#444「Team YKSR ALTO」が続く格好、#226「KSUAC-12 はんなりミラ」もゴールを目指す。



■最終結果

数回にわたり赤旗がでるレースではあったが、トップでチェッカーを受けたのは、87Lap を記録したした#100「HACもらいものビート」が逆転で優勝、開幕戦以来の今季 2 勝目を飾った。これでシリーズ獲得ポイントを 77 に伸ばす。

2 位には#383「カワセミブルーミニカ」、前回の 3 位より一つ順位を上げて自己最高位。3 位は#54「Y'sparts 悪童 ni アルト」、初参加で嬉しい表彰台を獲得。

4 位には#16「ガレージイシヤマトウデイ」終盤は苦しい展開ではあったが、4 位に入り 10 ポイントを獲得し、トータル 78 ポイント、わずか 1 ポイント差で年間チャンピオンを獲得！

以下 5 位#30「ガレージミウラ ワコズプレオ」、6 位#444「Team YKSR ALTO」、7 位#58「ガッツアルト with セシカ」、8 位 #226「KSUAC-12 はんなりミラ」となった。

シリーズ優勝は 1 ポイント差で#16「ガレージイシヤマトウデイ」の手に、中盤の 3 連勝がきいた形に。#100「HACもらいものビート」は惜しくも 2 位だが最初と最後を締める勝利でのシーズン終了。

シリーズ 3 位は着実に速さを増してきた#383「カワセミブルーミニカ」、最終戦の 2 位表彰台は自己最高位で来季につながる結果となった。

昨年からはまったノーマルにきわめて近い KNN クラス。ノーマルに近いとはいっても 1 分 10 秒を切るタイム、ともすれば 9 秒切りも見てきた現状では、「立派なレースカー」。「軽の手軽さ」でありながら「レースを楽しむ」コンセプトを体現したクラス。来期以降の隆盛を期待しつつ、今シーズンの熱い戦いは幕となった。





KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

このクラスのタイトル争いは#25「アカミネコマルトウディ」と、#60「明智自動車スペシャルトウディ」の一騎打ち。数字上は可能性が残っていた#911「CRAYZYZYトウディ」は今回エントリーしないためタイトル争いからは脱落、コンスタントにポイントを稼いでいる#81「パイオニアエッセ」がシリーズ3位に滑り込めるか。

初参加は#225「ぐっちっレーシングビート」と#243「コージーライツ&WPCビート」、#243にはホンダの若武者、中山・中嶋の両選手もエントリーリストに上がっている。普段はGT500や300クラスのマシンを駆る彼らの走りに注目。

■予選

予選クラストップを獲得したのは#60「明智自動車スペシャルトウディ」1'07.450、2番手には#25「アカミネコマルトウディ」1'08.631。#60はタイトルのためには勝利が必要、まずは予選では前に出ることになった。

3番手#225「ぐっちっレーシングビート」1'09.400、4番手#26「スマイルショップ多治見トウディ」1'10.746と続く。注目の#243「コージーライツ&WPCビート」は他クラスで起きた赤旗中断の影響もあって、タイムアタックよりは完熟走行に重きを置いた戦略で、1'11.589、#81「パイオニアエッセ」、1'12.587と並んで後方からスタートとなった。



■序盤

まず序盤にトップに立ったのは#60「明智自動車スペシャルトゥデイ」、タイトルのためには勝利が絶対条件とばかり1時間が経過した時点でも首位をキープ。2番手には#25「アカミネコマルトゥデイ」でこちらも譲れない。

3番手には注目の#243「コージーライト&WPC ビート」が中山選手のドライブで順位を上げてきており、トップとは1周差で続く。4番手には#225「ぐっちちレーシングビート」、5番手#81「パイオニアエッセ」となっている。#61「スマイルショップ多治見トゥデイ」は思うようにペースが上がらず6番手だが、巻き返しのチャンスをうかがっている。



■終盤

2時間経過時点では#25「アカミネコマルトゥデイ」がトップ、同一周回で#243「コージーライト&WPC ビート」、ドライバーは中嶋選手だ。#60「明智自動車スペシャルトゥデイ」は1周差の3番手で続き、勝利とタイトルへの執念を見せる。

4番手には#26「スマイルショップ多治見トゥデイ」が上がり、5番手5番手#81「パイオニアエッセ」、最後尾には序盤好調だった#225「ぐっちちレーシングビート」。

年間タイトルの行方だが、#25「アカミネコマルトゥデイ」と#60「明智自動車スペシャルトゥデイ」はどちらかが勝てば相手の順位に関係なく、チャンピオンの栄光を手にすることができる。現状の5ポイント差を気にせず勝利を目指すのみ。



■最終結果

数回にわたり赤旗がでるレース展開の中、勝ったのは#25「アカミネコマルトゥデイ」、#60「明智自動車スペシャルトゥデイ」は1周差の2位。この結果年間タイトルも#25、#60の順で決着、ネコマル2チームは昨年に続き2連覇を達成！

3位には注目の#243「コージーライト&WPC ビート」、Lap回数上では4位だったが、#61「スマイルショップ多治見トゥデイ」の義務ピットイン回数不足(章典外)により繰り上がり。4位#81「パイオニアエッセ」、5位#225「ぐっちちレーシングビート」の正式結果となった。

なお#81「パイオニアエッセ」は惜しくも年間3位逆転はならず、年間3位は#911「CRAYZYZYトゥデイ」の手に。



最後はアマチュアドライバーの手にマシンをゆだね、ピットから声援を送った中山・中嶋の両選手だが、市販車のレースについて「(クラス違いで)抜かれるとやっぱり悔しいですね」と感想を語ってくれた。

参加者の方も、プロと走る機会はそうそうないことで、よい経験になったと思われる今回のレース。これを機会に、軽自動車のレースがより盛り上がることを期待しつつ、今シーズンは無事終了した。





KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

KNCと並んで注目を集めたKNOクラス。#87「フリクション 801 R&D」チームからは2010年GT500クラスチャンピオン小暮卓史選手と同じく現役GTドライバーの山本尚貴選手がエントリー。HSV-010でGT500やフォーミュラ・ニッポンを戦う国内トッププロがビートをどのように走らせるのか。

迎え撃つ形のレギュラー参加者たちは、年間タイトル争いの真っ最中。#23「チームミニ」、#99「チームオーシャンズ」、#296「小山輪業」までが、タイトルの可能性があり、#23と#99のポイント差はわずか3、最終戦の結果いかんでは逆転もありうる大接戦。

ランキング4位以下も競り合いで、#880「コースコーションモータースポーツ」チームや#38「デモリッシュンエグゼ」チームも年間上位に食い込むチャンスをうかがう。



■予選

予選最速は#23「チームミニ トウディ」で、1'04.862。クラス唯一1分4秒台に入れ、総合でもセカンドローからスタート。それにつづくのが#296「小山輪業 KR-Oトウディ」で1'05.140とぴったりつける。

予選3番手は、#880「タカタ CCMCトウディ」1'05.920で、ここま

だが5秒台。その後、タイトルを狙う#99「オーシャンズトゥデイ」が1'06.106で続く。

注目の#87「フリクション 801 R&D ビート」、山本、小暮両選手が交代でステアリングを握り完熟走行をしつつタイムアタック、マシンとコースの特徴をつかんでゆく。適応の速さがプロの技だ。

以下#48「真和×コーギーライツビート」、#38「デモリッシュンエグゼトウデイ」、#102「ブラックジャックトゥデイ」と全8台で決勝に臨む。



■序盤

スタートから首位を走るのは、#296「小山輪業 KR-O トウデイ」。勝てば他チームの成績いかんによっては逆転でシリーズ優勝の可能性もあるだけに気合も入り、1時間終了時もトップをキープ。

遅れたくない#880「タカタ CCMC トウデイ」と#99「オーシャンズトゥデイ」も1~2周差で追走、タイトル争いは伯仲。残念なのは#23「チームミニ トウデイ」で予選を活かせず下位に沈む。

#87「フリクション 801 R&D ビート」は小暮選手がドライブ、KNC クラスの中山選手とランデブーをしながら4位を走行。すっかりマシンをつかんだようで、安定したラインをトレースしている。

中団の争いも僅差、#38「デモリッシュンエグゼトウデイ」、#102「ブラックジャックトゥデイ」、#48「真和×コーギーライツビート」の順でほぼ同じ周回で争っている。



■終盤

2時間経過時点となると、ピット戦略の関係で順位が動く。#880「タカタ CCMC トウデイ」が73Lapを走り先頭で、#87「フリクション 801 R&D ビート」が72Lapで続き、#296「小山輪業 KR-O トウデイ」は70Lap一旦3位に。さらに同Lapで#99「オーシャンズトゥデイ」というオーダー。このあたりは差は多くない、終盤の展開では順位の変動もありそうだ。

このままいけば年間タイトルは#99「オーシャンズトゥデイ」だが、#23「チームミニ トウデイ」が息を吹き返してくると一気に混戦ということも……目が離せない終盤戦。



■最終結果

赤旗で何度か中断したレースで、優勝は#296「小山輪業 KR-O トウデイ」。ピットイン以外は順位を落とすことなくトップを守り、今シーズン3勝目。

2位には#880「タカタ CCMC トウデイ」、3位には予選7番手から4つ順位を上げた#38「デモリッシュンエグゼトウデイ」が入り表彰台を獲得した。#87「フリクション 801 R&D ビート」は小暮、山本と豪華リレーの後、アマチュアにバトンを渡し、4位でフィニッシュ。

#99「オーシャンズトゥデイ」はしぶとく走って5位、以下6位には#102「ブラックジャックトゥデイ」、7位#48「真和×コーギーライツビート」、8位#23「チームミニ トウデイ」という結果。

これらの結果を踏まえた年間順位は、わずか2ポイント差で#99「オーシャンズトゥデイ」が栄冠！2位は出場した3戦すべて優勝と



いう#296「小山輪業 KR-O トウディ」。#99 オーシャンズは最終戦でしぶとく5位に入ったことがタイトルへの決めて手となった。(6位以下なら優勝回数で#296 小山輪業だった)

悔しいのは#23「チームミニ トウディ」も同じ、前半の出遅れが響き、3Lap 差で涙をのんだ。

NAのチューニングエンジンの魅力を十分に堪能できるKNOクラス、今シーズンはのべ15チームが参加、第2戦では過去最多の13台が参加した。レース中のベストタイムは上位勢は1分5秒台で拮抗している、来シーズンも熱い戦いが期待できそうだ。

こちらも最後はピットから声援を送った小暮・山本の両選手だが、市販車のレースについては「とっても楽しい」と笑顔で語ってくれた。

初めてのマシンで、ほぼ初めて走るコースを短時間うちに理解しタイムを詰めていくトッププロのドライビングは多くのアマチュアドライバーの参考になったはず。

今回は事前の告知をあまりしなかったこともあり、いわゆるファン交流会的なものはできなかったが、参加したすべてのクラスのドライバーたちと”走り”を通じた交流ができたのではと思う。

モータースポーツを楽しむという気持ちはすべてのドライバー・ファンに共通のもので、さらにモータースポーツの発展の機会になればと思わせる今回のレースだった。



KTCクラス（軽過給器付のクロードクラス）

KTCは実力伯仲、混戦のクラス、毎戦ごとに白熱した熱戦が繰り広げられ熱い戦いがみられる。9台がエントリーした2012最終戦の見どころは、上位3チームによる年間チャンピオン争い。

#46「カーエナジー」、#95「T.M.R」、#392「MRTm」は10ポイント差で競っており、どのチームにも年間タイトルのチャンスがある。

また、毎戦各チームのLap数が競うことも特徴で、上位、中団を問わずそれぞれのポジション争いが激化する見ごたえのあるレース。最後の最後に笑うチームはどこだ。

■予選

予選トップは#93「マリンダイビングアルト」、1'06.390。ここまで表彰台こそないが着実に完走を続けてきたこのチームに、速さが加わってきた、その速さを結果につなげることができるか。

2番手に続くのは、#95「DXL マックイーンカプチーノ」で1'06.445、カラーリングのモチーフとなっている映画の主人公のごとく優勝、そしてチャンピオンになれるのか。続いては#392「Zammers ヴィヴィオ」、1'06.772、少数派のSC搭載のヴィヴィオで参戦を続けるこのチーム、昨年は見事年間王者に輝いた。今年も開幕戦で優勝したが、他のマシンのポテンシャルアップもあってこのところは少々厳しい模様、最終戦での逆転にかける。

今季ここまで2勝を挙げタイトル争いの本命、#46「カーエナジーアルト」が1'07.353で4番手につけ虎視眈々と狙う。以下、#330「DXL ミヤマカプチーノ」、#44「館山寺近藤自動車板金ヴィヴィオ」、#112「白須賀会カプチーノ」、と#21「ZEST ルブロスセルボ」の順で続き、クラス最後尾は#925「赤兎 925 コペン」全9台が無事決勝に駒を進めた。

■序盤

スタートからしばらくは#392「Zammers ヴィヴィオ」を先頭に、#95「DXL マックイーンカプチーノ」、#93「マリンダイビングアルト」などが同一周回で争う。1時間終了時でトップに上がってきたのは、#44「館山寺近藤自動車板金ヴィヴィオ」、43Lapでなんと総合でもトップ。伏兵と思いきや、第4戦では表彰台の一角を占める実力の持ち主、他チームもうかうかしてはいられない。

それに続くのが、#112「白須賀会カプチーノ」、#330「DXL ミヤマカプチーノ」で2Lap差をキープ。一方、タイトル争いをする3チームは40~39Lapでこれまたつばぜり合いをしながら上位をしっかりと追っており、緊張した戦いが続く。

さらに予選最後尾から順位を上げてきた#925「赤兎 925 コペン」、#21「ZEST ルブロスセルボ」、逆に予選で速さを見せた#93「マリンダイビングアルト」はトラブルか、順位を大きく下げてしまう。

■終盤

2時間を過ぎたあたりでは、「DXL ミヤマカプチーノ」がトップに立つが、#44「館山寺近藤自動車板金ヴィヴィオ」も1Lap差で追走、3Lap差で#925「赤兎 925 コペン」がじわじわと順位を上げる。その下ではタイトル争いの3台に加え、調子を取り戻してきた#93「マリンダイビングアルト」がからんでの展開。#112「白須賀会カプチー



ノ」は少し遅れた模様だが、まだまだ挽回は可能な範囲。優勝争いとタイトル争いが絡み合った濃密な時間は最終盤へと続いていく。

■最終結果

強い風が吹く難しいコンディションのレースを制したのは、#330「DXL ミヤマカプチーノ」、嬉しい嬉しい初優勝！2位は#95「DXL マックイーンカプチーノ」、3位には途中までトップを走った#44「館山寺近藤自動車板金ヴィヴィオ」でこちらは2戦連続3位表彰台。

4位に入ったのは#46「カーエナジーアルト」、5位は#392「Zammers ヴィヴィオ」、6位#925「赤兎 925 コペン」、7位#93「マリンダイビングアルト」、8位#112「白須賀会カプチーノ」、#21「ZEST ルブロスセルボ」という順でフィニッシュとなった。

これで年間順位が決定、このクラスもわずか2ポイント差という僅差であったが#46「カーエナジーアルト」が栄光を手にした！2位は2位は#95「DXL マックイーンカプチーノ」、最終戦で勝てば……というところだがそれもレース。きっと来年はより強くなってマックイーンは帰ってきてくれるはずだ。

それに続くのは#392「Zammers ヴィヴィオ」、こちらは逆に最終戦で優勝した#330を1ポイント差で振り切ったの年間3位、#330は4位となった。

ターボかSCか？FRのカプチーノかFFのコペンか？一口に軽自動車といってもさまざまな選択肢があり、その中から自分たちの気に入ったマシンや思い入れのあるクルマで楽しめるのがこのクラス、チューニングもいわばストリートの範疇に近いとあれば、来年以降も更なる盛り上がり期待できる。欲を言えば新世代軽にターボやスポーツモデルが欲しいが、それは今後のお楽しみとして、2012年の熱き戦いをの幕を下ろすことにする。





KTOクラス（軽過給器付のオープンドクラス）

KTOは軽自動車の極限までパフォーマンスアップしたクラスで、総合優勝をかけてのハイレベルの争うがみられるクラス。今シーズンはここまで、中盤の3連勝を含む68ポイントで#210「autoproduce ZEST」チームが頭一つ抜きん出てランキングトップを走っている。とはいえ、#8「チームグローバル」にもタイトルの可能性が残っており、逆転のチャンスにける戦いがみられそうだ。

また注目は、#32「暴馬 Project」軽自動車レースではマイナーな車種であるミニカでの参戦を続けており、最高位はここまで3位、最近では速さと安定感が増してきた、全国一千万人のミニカファンの期待を背負って、上位をかき回す存在になると面白い展開がみられそうだ。

■予選

予選で見事ポールポジションを獲得したのは、#210「ZEST ルブロス DXL アルト」、1'03.922。ただ一台1分3秒台に入れ総合トップからスタートする。その横に並ぶのは予選2番手、#666「ヴィスコンティ IMW あると」で、1'04.226、3番手はタイトル争いをする#8「DXL グローバルカプチャーノ」で1'04.587で、ここまで総合の上位はすべてこのクラス、さすがに速い。

続く4番手は注目の#32「爆走 あばれ馬 DXLミニカ」が1'05.233



残念なのは2戦ぶりに出場の#14「ガレージシヤマ アルトバン」、ポテンシャルアップをして臨んできたのだが、セッション開始直後にクラッシュ、コースアウト。幸いドライバーに大きな怪我はなかったようで一安心。4台が決勝のグリッドについた。



■序盤

スタートからトップ3台が予選そのままの順位で、激しい先頭争いを繰り広げる。スタート30分の時点で30秒の差がないほどの激戦だ。1時間経過で#32「爆走 あばれ馬 DXL ミニカ」がトップに浮上、#666「ヴィスコンティIMW あると」がピッタリ追うものの波乱の予感が漂う。

#210「ZEST ルブロス DXL アルト」は3番手から虎視眈々とうかがう、狙うは優勝&タイトルだ。#8「DXL グローバルカップチーノ」は4番手を走行、ここまでが2Lap差で僅差の戦いは終盤戦へと向かっていく。



■終盤

その後ピットインで、順位を下げた#32「爆走 あばれ馬 DXL ミニカ」に代わって#210「ZEST ルブロス DXL アルト」ʚ「ヴィスコンティIMW あると」が激しいトップ争いを繰り広げる。その中で、#666はパンクで緊急ピットインを余儀なくされてしまう。続いてトップを追うのは#8「DXL グローバルカップチーノ」。

2時間時点での順位は1位#210「ZEST ルブロス DXL アルト」、73Lap、2位#8「DXL グローバルカップチーノ」同じく73Lap、3位#32「爆走 あばれ馬 DXL ミニカ」71Lap、#666「ヴィスコンティIMW あると」67Lapとなっており、最後の局面までわからない。



■最終結果

赤旗中断も出た、難しいレースで最後に笑ったのは、#32「爆走 あばれ馬 DXL ミニカ」、イエローフラッグペナルティで1周減算となりながらも歓喜の初優勝を総合優勝で飾った！これは、新規格車にとっても初めてのこと！！2位には#8「DXL グローバルカップチーノ」が入り今年3回目の2位、今シーズンはすべて表彰台に上った。3位には#210「ZEST ルブロス DXL アルト」、4位#666「ヴィスコンティIMW あると」もよく盛り返して、トップとは2Lap差と大健闘。

年間タイトル争いは#210「ZEST ルブロス DXL アルト」が80ポイントで初戴冠。#8「DXL グローバルカップチーノ」が2位、3位には#32「爆走 あばれ馬 DXL ミニカ」、4位#666「ヴィスコンティIMW あると」が入る結果となった。

ハイチューンの軽自動車というクラスにおいて、嬉しい初優勝を飾った#32「爆走 あばれ馬 DXL ミニカ」、専用パーツもなくほとんどが手作りという中で勝ったことは、このレースがマシンのポテンシャルだけで勝敗が決まるレースでないことの一つの証ともなった今シーズン。メンテナンスなどの点もあるが、「軽自動車という枠の中で様々なチューニングを楽しむという」改造車の楽しさが味わえるクラスでもある。来年はどんなマシンが楽しましてくれるのだろうか。



